

前 APSMI 事務総長
田頭恭博 様

メールをありがとうございました。

また、8 年間にわたる事務総長の重責の任、お疲れ様でした。

APSMI 事務局をただ一人で支え、ここまで組織を発展させた貴君の功績は、誰もが認める偉大なことだと思います。

これまで、本当にありがとうございました。

さて、手紙を拝見させて頂きました。

「日本協会の問題を APSMI へ持ち込むべきでない」という貴君のお考えは正論だと思います。

手紙に記載のある密室で行われた蛮行が、もし事実であるならば、上原前 APSMI 会長、黒川理事の取られた行動は、日本人として恥ずべき行動であると思います。

また、貴君が興和の社員であるという理由だけで、正当な根拠のない「興和との利益相反」を問題にされたことは全く理解不能です。

APSMI は私が OTC 薬協の会長を務めていた際に、中国、台湾、タイ、韓国の各協会の方々と相談し、将来的に TPP(Trans-Pacific Strategic Economic Partnership Agreement)のような一般用医薬品に関するアジア太平洋地域の国々による薬事規制の調和を目的とした協定が締結されることを期待して、発足をさせた組織です。貴君の手紙に記載がある通りに、私は日本の各社がお断りされた事務総長の派遣を、自らが発足を呼びかけた APSMI の創始者として決断しました。当時、貴君を派遣する際に、くれぐれも公明正大であること、中立であることをお願いしたことは、今でも覚えております。

そもそも協会活動ではあくまで開かれた議論が行われるべきであります。残念なことに、今回に限らず、一般用医薬品業界には、透明性の欠如した慣行がまかり通っています。しかし、日本はそのような慣行から脱したはずですし、今後行われる各種通商協議においても改めて透明性が問われることになると言われております。APSMI においても透明かつ多数決の論理に基づく運営が行われることを心から望みます。

貴君と同様に私も APSMI を愛しております。

Yan 新会長の下で、一刻も早く、正常な APSMI 事務局運営に戻ることを願っております。

平成 30 年 11 月 5 日

APSMI 理事
日本一般用医薬品連合会
会長 三輪芳弘

